

混合ワクチンで 感染症を予防しましょう！



飛騨地域では、特に寒い時期に流行する牛呼吸器病をはじめとした感染症を予防するため、秋に母牛にワクチン接種を実施しています。

特に…

RSウイルス病を予防しましょう

飛騨地域でも
発生！！

飛騨地域では秋から春にかけて、最近発生があり、死亡事例もあります。冬はもちろん、秋口や春先など昼夜の寒暖差にも注意しましょう。

牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)を予防しましょう

全国的に発生が増加しています。
飛騨地域でもH24年度とH26年度に発生がありました。

混合ワクチンは以下の病気を予防します

○ 牛伝染性鼻気管炎 (IBR)

届出伝染病に規定されている急性熱性呼吸器伝染病で、一般的な呼吸器症状の他、膣炎、流産、髄膜脳炎、下痢などの多様な症状を起こします。

○ 牛RSウイルス病 (RS)

牛の急性熱性伝染病で呼吸器症状を起こします。重症牛では、首、胸や背中の皮下に空気がたまり、ぷちぷち音(捻髪音)のする「皮下気腫」がみられます。

○ 牛パラインフルエンザ (PI3)

一過性の発熱を起こす病気で輸送後や集団放牧の際に多発します。他の呼吸器ウイルスや細菌との混合感染によって症状が悪化します。

○ 牛アテノウイルス病 (AD7)

牛に呼吸器症状や軽度～重度の下痢などを単独あるいは合併して起こします。経過が長いと発育遅延や死亡することもまれにあります。

○ 牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) : 2種類

届出伝染病に規定されており、発熱・下痢あるいは消化器粘膜のびらんを起こします。また、妊娠牛に感染すると経胎盤感染が高頻度に起こり、感染時の胎齢により胎子死、流産、死産、奇形また免疫寛容に基づく持続感染牛での粘膜病発生がみられます。本ウイルスには血清型が2種類あります。



飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468 TEL:0577-33-1111 FAX:0577-32-9019

E-mail: c24508@pref.gifu.lg.jp

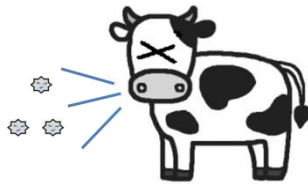




ワクチンの種類



ワクチン種類	子牛用ワクチン		母牛用ワクチン	
	5種生 牛5種混合	6種生 カーフウイン6	6種不活化 キャトルウイン6	5種不活化 キャトルウイン5K ポビバック5 ポビバックB5
牛伝染性鼻気管炎 (IBR)	生	生	生	不活化
RSウイルス病(RS)	生	生	生	不活化
牛パラインフルエンザ(PI3)	生	生	生	不活化
牛アデノウイルス病	生	生	生	—
牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD1型)	生	生	不活化	不活化
牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD2型)	—	生	不活化	不活化



5種不活化ワクチンは、全て不活化ワクチンのため、安定した抗体価が得られます。

生ワクチン

病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱め、病原性をなくしたものから作られる。1回の接種で効果があるが、移行抗体の影響を受けやすい

不活化ワクチン

病原体となるウイルスや細菌の感染能力を失わせた(不活化)ものから作られる。安全性が高く、妊娠牛に接種可能であるが、自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いいため、追加接種が必要となる。

* ワクチンの接種時期や種類は診療獣医師と相談してください。

飼養衛生管理基準遵守の徹底を！

疾病予防にワクチン接種は有効ですが、飼養衛生管理を徹底しないと効果が上がりません。できることから実行し、継続することが大切です。